

新年明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願いします。

本年もいろいろな情報をドンドン発信しますので
どうぞよろしくお願いします。



牛群検定の利活用などについて、解説記事を掲載しています。

- 1 デーリィマン 2月号 デーリィマン社
牛群検定の読み方(その29)
乳量計の正しい使用方法とは
- 2 LIAJニュース1月号 (一社)家畜改良事業団
新しい牛群検定成績表について(その92)赤ペンコメント乳量編③
気象情報の見方を赤ペンにより解説
牛群検定ビッグデータ(その37)
BHB(β -ヒドロキシ酪酸)について

冬は風邪と下痢に注意しましょう！

1 検定成績表のチェック！

乳牛は寒さに強いと言われていますが、それでも冬はやはりカゼ(呼吸器病)や下痢(消化器病)に気をつけなければなりません。検定成績表でチェックしましょう。

乳量の減少は、図示した通り前月との比較で記号で示されます。冬季に気をつけたいパターンは、タテに大小の三角が並んだときです。楕円で囲んだようにタテに大小の三角が並んだときは、牛群全体でのトラブルが考えられます。寒気のせいで搾乳機が不調になっていないか、給水器が凍結していないかなどを確認してください。もうひとつ大事な確認事項として、病気の蔓延があります。特に、冬季特有の病気が流行しやすい季節なので、注意が必要です。

改善が必要な検定成績の見本

冬季での検定

牛 コード	分		娩		搾乳 又は 乾日 数 ※2	乳 量 (kg)					
	年 月 日	産次	産子 性別 (種 - 月)	難 易		今 月			標 準 乳 量	前月	前々月
						1回	2回	合計			
0121	270906	1	♀	1	166	9.0	12.0	21.0	24.4	23.0	23.2
0017	270903	2	♂	1	169	17.2	10.4	▼27.6	34.6	37.8	
0063	270825	3	♂	1	178	12.4	8.4	▼20.8	24.2	▼25.6	
0120	270824	1	♀	1	179	6.0	8.0	▼14.0	26.6	24.0	
0106	270811	2	♀	1	192	11.0	13.6	24.6	27.9	▼24.0	28.0
0003	270723	3	死産	1	211	14.0	15.0	▼29.0	32.9	35.0	▼37.4
0119	270721	1	♀	1	213	15.0	9.6	▼24.6	30.3	30.8	31.4
0118	270718	1	♀	1	216	14.0	10.0	▼24.0	29.6	31.0	30.0
0093	270619	2	♀	1	245	10.0	18.0	28.0	35.2	22.6	23.0
0074	270608	3	♀	1	256	8.0	8.0	▼16.0	22.7	▼20.0	22.4
0031	270530	2	♀	1	265	14.6	13.4	▼28.0	36.7	36.0	39.2
0098	270429	2	♀	1	296	13.0	12.8	25.8	36.2	26.8	29.0

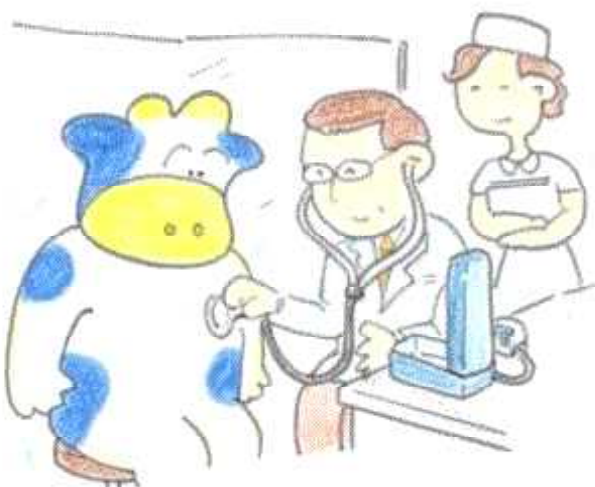
乳量減少の記号(それぞれ前月と比較)

▽:10~20%減少 ▼:20~40%減少 ▼:40%以上減少 ※:分娩後60日以前に減少

2 冬季の病気の症状

冬季の牛の病気は、寒冷ストレスに合わせウイルスや細菌など様々な要因により発生します。呼吸器や消化器に症状が現れます。集団で蔓延しやすく、乳量を大幅に減少させ、経済的に損失を伴います。検定成績表で上図のように乳量減少を示す牛が続出した場合は、緊急的に牛舎の牛を観察してください。発熱、下痢、咳、流涎、流涙、鼻水などの症状が出ていないか、特に子牛に蔓延しやすい病気ですので、子牛の観察も忘れずに行ってください。肺炎を併発して死亡してしまう子牛も珍しくありません。回復したとしても、発育に影響することが多く、発育不足から初産時の低乳量に繋がります。

牛舎の牛を観察し、ここにあげたような症状が成牛や子牛に蔓延している場合は、獣医師に相談するようにしてください。



～～ 冬季の成績表② ～～

前回に引き続き冬季の成績表のポイントを紹介します。ホルスタインは寒さに強いと言われています。しかし、それでも冬季にはトラブルが発生しやすくなります。検定成績を使ってどのようなトラブルが表示がされるか紹介したいと思います。

①乳量の欄に、▼が沢山表示されてますか？（前ページ）

Yes No
→Yes:改善 No:良 流行性の風邪、下痢など 前ページ参照

②体細胞数の欄に、△▲が出ていませんか？（下図2）

Yes No
→Yes:改善(乳房炎) No:良 △▲が多いときは、乳房炎対策そのものを見直す必要があります。

③推定新生子牛早期死亡の欄の数値が高くありませんか？（下図3）

Yes No
→Yes:改善 No:良 分娩管理、初乳の哺乳、保温、換気を見直す必要があります。

図2 検定成績表2枚目の中央

月	個体識別番号 (*は無登録牛) 品種	体細胞			繁殖の		
		高体細胞 影響率 今月 (千/ml)	体細胞数 (千/ml)		授精		E T
			前月	前々月	月日	回数	
12	3333318320 H	△1116	7	▲1504	▲1201	01.19	3
'8	3333318337 H	6	168	41	09.22	1	
18	3333318405 H	250	252	△ 349	02.07	3	

△：乳房炎
体細胞数 283 ～ 1131

▲：重度な乳房炎
体細胞数 1132 ～

図3 検定成績表の裏面

(1)牛群検定における分娩状況

母牛	分娩数	分娩				流産 ※3	推出生数 ※4	推定新生子牛 早期死亡 ※5	
		双子以上 (♂♀)	死産 (早産除く)	難産 ※1	早産 ※2				
1産	11	0.00 (0.00)	18.18 (9.09)	0.00	11.11	0.00	9	0	0.00
2産	12	8.33 (0.00)	0.00 (0.00)	0.00	0.00	0.00	13	2	15.38
3産以上	22	4.55 (4.55)	0.00 (0.00)	0.00	4.55	0.00	23	0	0.00
計	45	4.44 (2.22)	4.44 (2.22)	0.00	4.65	0.00	45	2	4.44

死産、難産、早産、流産についても、多い場合は対策が必要です。

「推定新生子牛早期死亡」とは、分娩後直ぐに1週間程度で死亡してしまった子牛のことです。耳標を装着する前に死亡した子牛をカウントしています。この比率が目安として5%以上であれば、虚弱な子牛で、保温が十分でなかったなど子牛管理に課題があります。